

折りたたみ 電動アシスト自転車

取扱説明書

最終ページ保証書付
Ver. 1.2.2

この度は、当社自転車をお買い上げいただき、誠に有難うございます。

- ご使用になる前に、本書をよくお読み頂き、正しい使用方法をご理解の上、安全で快適なサイクルライフをお楽しみください。
- 本自転車は日常生活用として設計されています。業務、競技用としてはお使いにならないでください。



KH-DCY310NE
20インチ 無変速

- 本書内の写真やイラストはイメージです。
(お買い上げ頂いた自転車とは、形状やデザインが異なることがあります)

目次

安全上のご注意	•••••P1
・自転車	•••••P3
・バッテリー、充電器	•••••P5
電動アシスト自転車について	•••••P7
各部のなまえ	•••••P8
お乗りになるまえに	•••••P9
・組立て手順	•••••P9
・折りたたみ手順	•••••P11
・正しい姿勢で乗りましょう	•••••P14
・交通ルールを守りましょう	•••••P16
・道路標識を守りましょう	•••••P16
乗りかた	•••••P17
・発進のしかた	•••••P17
・アシストモードについて	•••••P18
・前照灯(LEDライト)について	•••P18
停止、駐輪のしかた	•••••P19
充電のしかた	•••••P19
バッテリーについて	•••••P21
お手入れと保管	•••••P22
故障かな?と思ったら	•••••P23
・自転車	•••••P23
・充電器、バッテリー	•••••P24
防犯登録について	•••••P25
仕様	•••••P26
品質保証規定/保証書	•••••未巻

安全上のご注意

- *ご使用前に必ず、この「安全上のご注意」を良くお読みいただき正しくお使い下さい。
- *お子様がご使用の場合は、保護者の方がこの「安全上のご注意」を必ずお読みいただき正しい乗り方をご指導下さい。
- *ここに示した注意事項等は、製品を安全に正しくお使いいただく為に、誤った扱いをすると生じることが想定される事を危険・警告・注意の3種類に区分し、安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

 危険	「死亡」や「重症」を負うおそれが大きい内容です。
 警告	「死亡」や「重症」を負うおそれがある内容です。
 注意	「傷害」を負うことや「物的損害」が発生するおそれがある内容です。

 	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

 【警告】	
	改造や分解はしない。 部品の破損などによって、外れて転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	調整後の締め付け（車輪・サドル・ハンドル・バッテリーなど）を確認せずに乗らない。 車輪やサドル、ハンドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
	サドルやハンドルの引き上げ限界点標識が見えるまで上げない。 サドルやハンドルの折れや抜けによる、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	異常がある場合は乗らない。 異常があるまま走行すると事故や転倒によるけがのおそれがあります。
	飲酒運転は禁止です。かぜ薬などを服用、また体調が悪いときは乗らない。 ヘッドフォンを使用しながら、傘差し、携帯電話を使用しながらの運転はしない。 転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
	荷物をハンドルや手にかけたり、ペットをつないで乗らない。 荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。

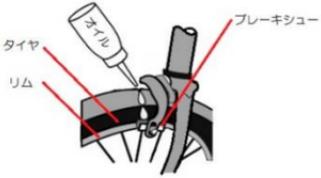


【警告】

 禁止	かかとの高い靴や、滑りやすい靴を履いて乗らない。 足がペダルから外れて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	二人乗りは禁止です。 飲酒運転は禁止です。
 禁止	雨・風・雪のひどいときは、乗らない。 バランスをくずし、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	次の様な運転はしない。 ヘッドフォンを使用しながらの運転・傘さし運転・携帯電話を操作しながらの運転。
 禁止	走行中に手や足で前照灯(LEDライト)の角度調整はしない。 *停止した状態で、前照灯の角度を調整してください。 前方不注意となり、転倒や衝突・手足が車輪に巻き込まれけがををするおそれがあります。
 禁止	凹凸の激しいところを走らない。 *歩道の段差や溝など フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれがあります。降りて押して歩いてください。
 禁止	合図以外は、ハンドルから手をはなさない。 バランスがとりにくく、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	カーブで曲がる側のペダルをさげない。 ペダルが地面と接触し、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
 禁止	巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させてのらない。 *長いスカートやマフラー、傘など 車輪やギアに巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	傘や釣りざお、ステッキ等車体に差し込んだり下げたりしてのらない。 車輪に巻き込んだり、人や物にぶつけて事故や転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	スポークの間にボール(固形物)などを入れて走らない。 車輪に巻き込まれて、転倒によるけがのおそれがあります。
 禁止	走行以外には使わない。 踏み台代わりなどに使用すると、転倒によるけがのおそれがあります。
 注意	自転車用ヘルメットを着用。 頭部の保護のために有効です。

安全上のご注意（自転車）

 禁止	けんけん乗りしない。 転倒や接触事故によるケガの恐れがあります。
 禁止	前ブレーキだけのブレーキ操作はしない。 転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	組立て前の自転車や、未調整の自転車に乗らない。 通常の運転が出来ず転倒や衝突によるケガの恐れがあります。
 強制	前後ブレーキ動作やハンドル・車輪の固定、タイヤなどの乗車前点検をおこなう。 異常があれば、転倒によるケガの恐れがあります。
 接触禁止	回転部分に手や足、物を近づけない。 巻き込みや転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	巻き込まれやすい服装では乗らない。 スラックス、スカートの裾、マフラーなどは車輪やギアに巻き込まれ、転倒によるケガの恐れがあります。
 強制	ご使用開始から2ヵ月以内にお近くの自転車販売店で、自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。 ご使用開始から2ヵ月位で各部のネジがゆるむことがあります。
 禁止	スピードを出しているときは急ハンドルをしない。急カーブでスピードを出し過ぎない。 スリップや転倒によるケガの恐れがあります。
 禁止	夜の無灯火での運転は交通違反です。 視界が悪い時（夜間、トンネル内、霧など）は無灯火で走らない。 見通しが悪くなり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 自動車からも見えにくくなり危険です。 前照灯が故障していたり、リフレクターが破損あるいは汚れている場合は自転車を押して歩いてください。
 禁止	自転車を走行以外の目的で使用しない。 腰掛けや踏み台など目的外のことで使わないでください。 転倒によるケガの恐れがあります。 スタンドを立てたままペダルを強く踏み込まないでください。 車輪駆動の特性で発進しようとする場合があります。

 <p>禁止</p>	<p>ブレーキシュー、タイヤ、リムには注油しないこと。 ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガの恐れがあります。</p> 
 <p>禁止</p>	<p>走行中は電源スイッチ、アシストモードスイッチ、ライトスイッチの操作をしない。 前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 必ず停車した状態で操作してください。</p>
 <p>水ぬれ禁止</p>	<p>水洗いはしない。 浸水により電気部品や配線の絶縁が劣化して、漏電など故障の原因になります。</p>
 <p>強制</p>	<p>走行中に異音が発生したり、自転車車が転倒したり、水に浸かってしまったなど異常が発生した場合は直ちに使用を中止し、保証書記載のサポートセンターまでご連絡ください。 そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>走行中に残量表示ランプ等を注視しない。 表示に気を取られ、前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。</p>
 <p>強制</p>	<p>1年ごとにお近くの自転車販売店で自転車安全整備士、自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。 また、部品の交換は下記の目安で行ってください。 ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキワイヤは、異常が無くても2年に1回は、交換してください。 ●ブレーキレバーの遊びが大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 ブレーキが効かない恐れがあります。 ●ブレーキゴムは、溝の残りが1mmになる前に交換してください。 ●チェーンのたるみの大きいものは直ぐに販売店で調整してください。 走行時にチェーンが外れる恐れがあり危険です。 ●タイヤは、接地面（トレッド）の溝が無くなる前に交換して下さい。

安全上のご注意 (バッテリー、充電器)



【危険】

 禁止	バッテリーを火中に入れたり、過熱をしない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	バッテリーに衝撃を与えたり、分解や改造はしない。 ケースの破損、感電、液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	端子 (+ -) を金属などで接触させない。 感電や液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	アシスト自転車専用バッテリーです、他の機種・機器・用途には使用しない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	火のそばなど高温の場所での充電・使用・放置はしない。 液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
 禁止	付属の充電器のケース・コードやプラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
 強制	バッテリーを充電する場合は専用の充電器を使用する。 他の充電器を使用すると、発火・異常発熱・故障・破裂のおそれがあります。
 強制	バッテリー液が目に入った時は、こすらずきれいな水で十分洗い流しただちに医師の治療を受ける。 失明のおそれがあります。



【警告】

 禁止	充電器の分解・改造や端子間のショートはしない。 感電、発火、異常発熱のおそれがあります。
 禁止	傷ついたまま使用しない。 ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり目に入った場合失明するおそれがあります。異常発熱や破裂のおそれもあります。
 水ぬれ禁止	衝撃を与えたり、落下させない。水漏れ、高温度な場所での使用はしない。 発熱、発火、感電のおそれがあります。



【警告】

 禁止	幼児、ペットなどが触れる場所には放置しない。 感電、ケガ、故障、火災の原因になります。
 禁止	充電器は専用バッテリー以外使用しない。 バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。
 禁止	バッテリーの液が衣類や皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗いながす。 皮膚に障害を起こすおそれがあります。
 禁止	充電中は上に物を置かない。 内部が発熱して、火災のおそれがあります。
 禁止	充電器本体に、電源コードを巻きつけて保管しない。 電源コードなど断線し、傷んだまま使用すると感電、故障、火災の原因になります。
 ぬれ手禁止	電源プラグをぬれた手で抜き差しはしない。 感電するおそれがあります。
 強制	電源プラグは根元まで差し込む。 不完全な差し込みだと、感電や発熱による火災の原因となります。
 強制	電源プラグや充電端子についたほこりなどはとる、油などは付着しないようにする。 感電や発火のおそれがあります。



【注意】

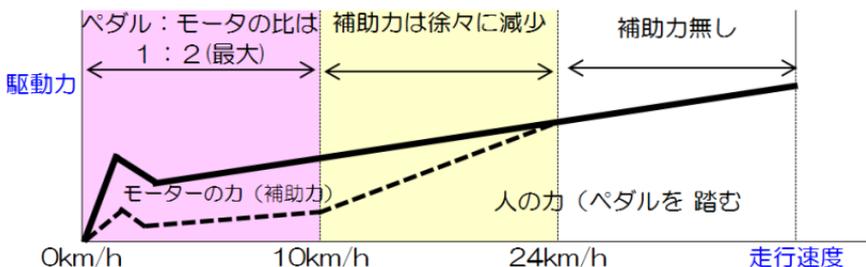
 強制	充電中は、同じ箇所を長時間皮膚に触れさせない。 温度が40℃～60℃になる場合があります、低温やけどのおそれがあります。
--------	---

電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車は普通の自転車と違って、ペダルアシスト付きの自転車です。電動アシスト自転車についての正しい知識を身につけましょう。

～ペダルアシストとは～

人がペダルを踏む力に応じて、モーターの補助力を加えて走行を助ける機能です。



下記のようなときはペダルアシストが働きません。

- 速度が24km/h以上のとき
※速度が24km/h以下でも平地などのペダルの負荷が少ない道路では、ペダルアシストが働かない場合があります。
- ペダルの回転を止めているとき。
- バッテリー残量が少なくなったとき。
※バッテリー残量がなくなるとペダルアシストは働きませんが、普通の自転車として走行できます。
- ブレーキレバーを握ると安全装置が作動しアシストは働きません。

～走行できる距離の目安～

1回の充電で走行できる距離は

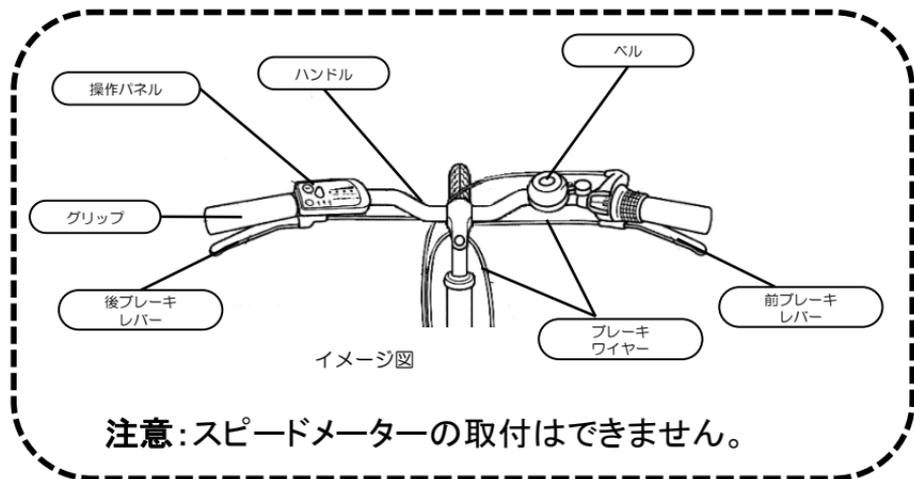
- KH-DCY310NE (20インチ) 最大約21km (平坦な道での走行)

条件：バッテリー新品、温度20℃、無風状態、前照灯消灯、車載質量60kg (乗員および荷物を合計した質量)、低モード時

- ※走りかた、道路状況、気候などにより1回の充電で走行できる距離は異なります。
特に整備状態、積載質量の増加や登り坂が多い場合は、走行できる距離が短くなります。
- ※バッテリーの特性上、冬季は走行できる距離が短くなります。
- ※バッテリーの特性上、充電回数の増加に従い、1回の充電で走行できる距離が短くなります。
走行距離はあくまでも目安で、1回の充電による走行距離を保証するものではありません。

各部のなまえ

ハンドル部



イメージ図



お乗りになるまえに 組立て手順

1.車両本体（車体部）を組み立てる



注意

★フレームのジョイント部分を持って開閉しない。



指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

強制

★ジョイント部分が確実に固定されているか確認する。



フレームのジョイント部が開き、転倒によるけがのおそれがあります。

強制

①二つ折りになっている自転車を開き、仮固定する。

①



②スタンドを立てる。

②



③フレーム締付レバーを上を上げフレームジョイント部をはめ込みロックする。

*手や配線類をフレームジョイント部に挟まないように注意して下さい、
けがや断線などの原因となります。

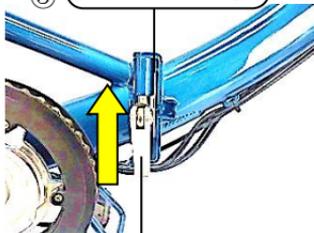
イメージ図

④フレーム締付レバーを写真の位置にします。

⑤フレーム締付レバーをしっかり締めて下さい。フレーム締付レバーを下側にグッと止まるまで押し込んで下さい。

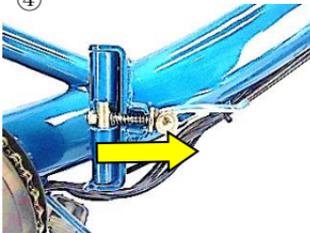
*ガタツキが無いかしっかり確認して下さい。

③ フレームジョイント部

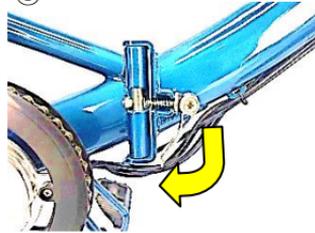


フレーム締付レバー

④



⑤

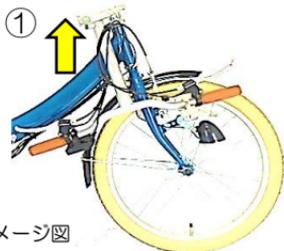


イメージ図

注：ジョイント部分が確実に、固定されていることを確認してください。

2.ハンドルを組み立てる

①ハンドルを起こす。



イメージ図



警告

★ジョイント部分を持ってハンドルを起こさない。



指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

接触禁止

★ハンドルの締付を確認せずに乗らない。

★ハンドルを締付てもガタや緩みがあるときは乗らない。



走行中、ハンドルが折れ曲がり、転倒によるけがのおそれがあります。

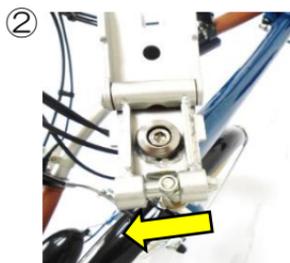
接触禁止

②ハンドル締付レバーを矢印の方向に動かし、ハンドルジョイント部をはめ込みロックする。

*手や配線類を挟み込まないように注意して下さい、けがや断線の原因となります。

③ハンドル締付レバーをしっかりと締めて下さい。ハンドル締付レバーを矢印の方向にグッと止まるまで押し込んで下さい。

*ガタがないかしっかり確認して下さい。



注：組立て後はハンドルが確実に固定され、がたつきがないことを確認してください。

イメージ図

イメージ図

3.サドル高調整

①サドル固定レバーを緩め、サドルを上下に動かし高さの調整を行ってください。

サドルを真直ぐにして、サドルを持って固定レバーを締め付けてください。

*引き上げ限界線以上に引き上げない。

サドル固定レバー



引き上げ限界線



イメージ図

②サドルを上下左右に動かして、しっかり固定されているか確認して下さい。

③締め付け後サドル固定レバーは図の範囲内の位置になるように収納して下さい。

折りたたみ手順

1. ハンドルを折りたたむ



警告

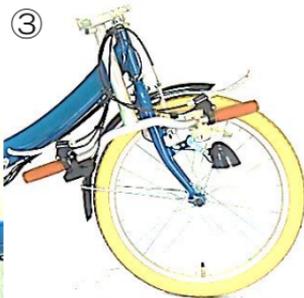
★ジョイント部分を持って折りたたまない



接触禁止

指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

- ①ハンドル締付レバーを矢印の方向に上げ、レバーを緩める。
- ②ハンドル締付レバーを矢印の方向に動かし、ロックを外しハンドル部を上上げる。
- ③ハンドル部を倒す、ハンドルがライトに当たる場合はライトの角度を変え接触しないようにする。

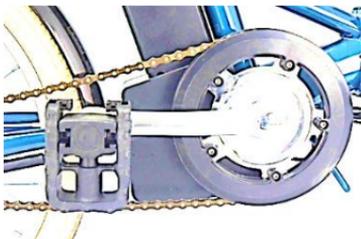


イメージ図

注：ハンドルを折りたたむとき、ブレーキワイヤーがジョイント部等に引っ掛らないようにご注意ください。

2. 車両本体（車体部）を折りたたむ

- ①右側のペダルが後方になるように、ギアクランクを回転する。



警告

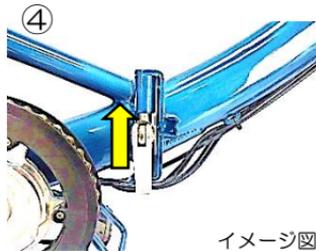
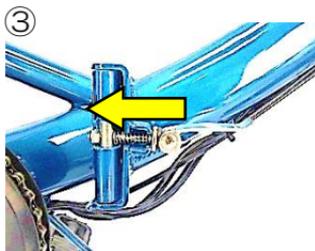
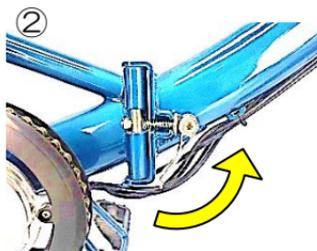
★ジョイント部分を持って折りたたまない。



指や手をはさんでけがをするおそれがあります。

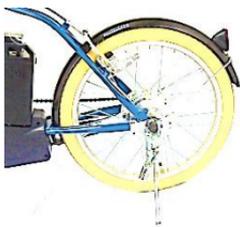
イメージ図

- ②フレーム締付レバーを矢印の方法に上げ、レバーを緩める。
③フレーム締付レバーを左側にまわす。
④フレーム締付レバーを上へ上げ、ロックを外しフレームを折りたたむ。



イメージ図

- ⑤スタンドを上げる。



- ⑥フレームの前半分を時計方向に回転させて折りたたむ。



- ⑦完成図。
*付属の締め付けバンドで、前輪と後輪を固定する。

締め付けバンド



イメージ図

お願い

- フレームを折りたたむ際は、必ずバッテリーロックキーを抜いておいてください。フレームに傷がついたり、バッテリーロックキーが破損するおそれがあります。
- 前後の車輪が平行になるように折りたたんでください。
- 付属の締め付けバンドで、前輪と後輪が広がらないようしっかり固定してください。
- 折りたたんだ状態での持ち運びは、自転車を両手でしっかり持ち、周囲の人、物に十分注意して行ってください。

●組立説明

■ペダル取付け手順 (スパナ・専用工具等で緩みがないか確認して下さい)

※ペダルには、右用 (R) と左用 (L) があります。

①ペダルの軸の端面に「R」(右用)、「L」(左用)の刻印があることを確認してください。(左の軸にギザギザの刻みがありますので確認してください。)

②右用のペダルは右足をのせる方に、左用のペダルは左足をのせる方にネジをしめるように取り付けてください。

左右でねじ方向が逆になっていますのでご注意ください。

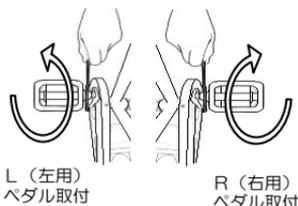
左右を間違えて無理に取り付けるとネジ山が破損することがありますので必ず正しく装着してください。



イメージ図



③ペダルの取り付けは、はじめに手で締められるところまで締めた後、スパナ/専用工具等でしっかりと本締めして、がたつき等ないか確認して下さい。



■ハンドルの調整

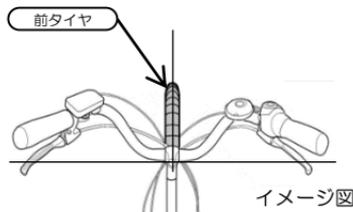
①六角レンチで引き上げ棒ゆるめます。

※ボルトをゆるめすぎると、ウスが引き上げ棒から外れてしまうのでゆるめすぎないこと。

②ハンドルが前輪に対して、90度(直角)にしてボルトを固くしめます。

③締めつけた後、ハンドルを軽くゆずってガタや曲がりがないか確認してください。

*【警告】引き上げ線以上に引き上げない。

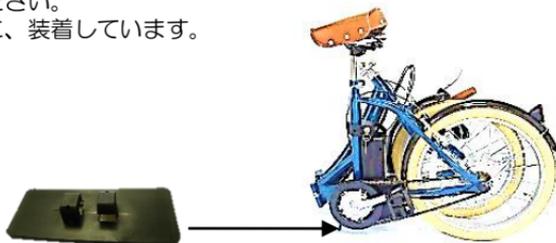


■折りたたみ時のスタンド保護プレートを外す

①梱包時には、折りたたみ時のスタンド保護プレートが装着されています。

②組立が完了後、スタンド保護プレートを横に動かし外してから、ご使用ください。

* 梱包箱の破損防止の為に、装着しています。



お乗りになるまえに

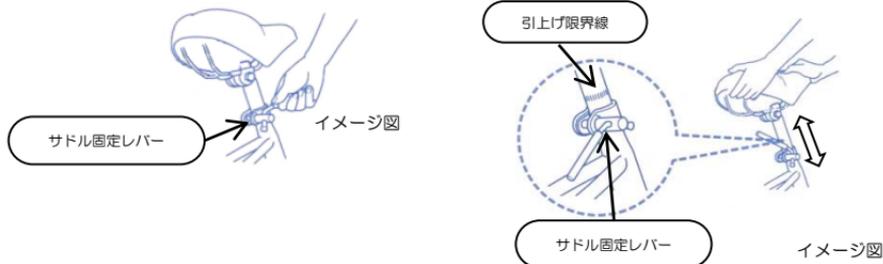
～正しい姿勢で乗りましょう～

安全に乗車していただくために、図のような姿勢になるようにサドルの位置を調整してください。

サドルの高さは両足先が地面につくように調整してください。

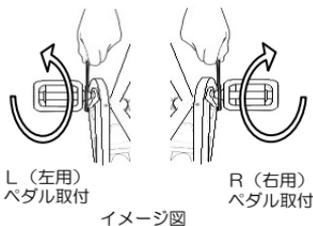
サドルの高さ調整

- ①サドルの固定レバーを十分にゆるめず高さを調整を行うと、シートポストを傷つけることがあります。
 - ②サドルを上下に動かして高さを調整を行い、サドルを持ってサドルの固定レバーを締めます。
- *【警告】引き上げ線以上には引き上げない。
- ③サドルを上下に左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。
 - ④締めつけ後サドルの固定レバーは図の範囲内の位置になるよう収納して下さい。



ペダルの締め付け

ペダルは装着されています、スパナ/専用工具等でしっかり締めて、ゆるみ等ないか確認して下さい。



正しい服装で乗りましょう

動きやすく運転しやすい服装で、自転車には乗ってください。

*裾の広いズボンなどはズボンバンドで止めて、巻き込みや汚れを防止してください。

付属品の確認

自転車本体のほか下記のものすべてが含まれることをご確認ください。

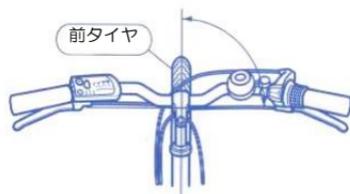
- ・充電器
- ・取扱説明書（保証書付）
- ・盗難補償登録カード
- ・締め付けバンド

安全に乗車していただくために、乗車前には下記の点検を実施する習慣をつけましょう。

- ・ハンドルの角度はひじが軽く曲がる程度に調整してください。
- ・サドルの高さは両足先が地面につくように調整してください。

① ハンドルのがたつき・・・イラスト

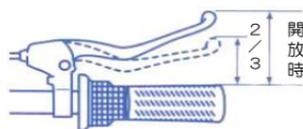
ハンドルを上下左右に動かし、がたつきがないか点検しましょう。
ハンドルが前輪に対して90度（直角）になっているか点検。



イメージ図

② 前後ブレーキレバーの握りしろ・・・イラスト

ブレーキレバーが開放時の約2/3の位置で、ブレーキが効きはじめることを点検。



イメージ図

③ LEDライトの点灯

汚れ・破損がないか点検します、汚れは拭取り損傷している場合は交換してください。
また、LEDライトが点灯するか確認。

④ 前後車軸の固定状態

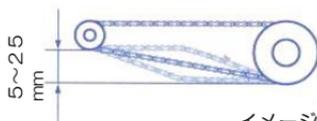
タイヤをゆすり、がたつきがないか点検。

⑤ ペダルのがたつき

ペダルをゆすり、がたつきがないか点検。

⑥ チェーンの張り具合・・・イラスト

チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～25mmあれば適正です。



イメージ図

⑦ バッテリーの取付状態

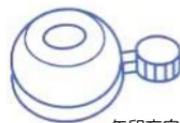
確実に取り付けられているか点検。

⑧ サドルのがたつき

サドルを左右上下に動かし、がたつきがないか点検。

⑨ ベルの鳴り具合・・・イラスト

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検。



矢印方向に引くと
ベルが鳴る

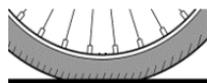
イメージ図

⑩ 前後タイヤの損傷・摩耗

摩耗やタイヤに釘などがささっていないか点検。

⑪、⑫ ホイールリフレクタ、リアリフレクタの汚れ・損傷

汚れ、損傷がないか点検。
汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。



イメージ図

⑬各部ネジの締付確認

緩みがある場合には、ドライバーやスパナ等で締付を行う。

点検で異常があった場合、部品の変形などの異常があった場合、
異音や違和感を感じた場合は、乗車しないでお近くの自転車販売店又は、
サポートセンターまでご相談下さい。

安全のための点検・調整

乗る前の点検

「乗る前の点検」とは、ご使用前に、毎日お客様ご自身でおこなっていただく最少限度の点検・調整の事です。「お乗りになるまえに」に書かれた点検方法に従い、ご使用前に必ず実施してください。

定期点検・調整

「定期点検・調整」とは、未永く安全にご愛用いただくため、お客様に変わって自転車販売店などでおこなう点検・調整の事です。自転車販売店（自転車組立整備士・自転車安全整備士）へご依頼ください。※料金は有料となります。（消費税課税対象となります）あらかじめ自転車販売店にご相談ください。

TSマークについて

●TSマークは、道路交通法の基準に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した自転車に貼付されます。自転車に貼られたTSマークは、はがさないでください。

※工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。



TSマーク イメージ図

～交通ルールを守りましょう～

※2015年6月より改正道路交通法が施工されました。走行ルールを守りましょう。

- 見通しの悪い交差点や、狭い道から広い道に出る時は、必ず一時停止をして左右の安全確認をしてください。
- 交差点では左に曲がる車に注意。
左に曲がる車のすぐ横は、巻き込まれるおそれがありますので十分注意してください。
- 信号機のない交差点で右折するとき。
右腕を水平にして手のひらを下にする。左右前後を良く確認して右折してください。
- 車道の左側を必ず一列で走行してください。
踏切では一時停止して、左右の安全を確認してください。
- 子供の飛び出しに注意。
公園や学校のあるところでは、子供の急な飛び出しに十分注意してください。
- 無灯火運転。
夜の無灯火運転は交通違反になります。
- 視界が悪い時
必ず前照灯をつけてください。また、早めにつけてください。

～道路標識を守りましょう～



乗りかた

～発進のしかた～

①スタンドを上げてサドルにまたがります。
スタンドはロックレバーを、後方に押し上げてから上げてください。



けんけん乗りはしないでください。

転倒や接触事故によるケガのおそれがあります。

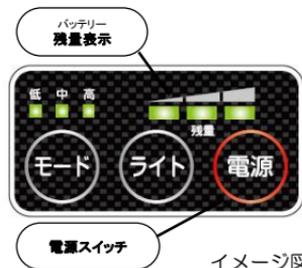
必ずサドルにまたがってから発信してください。

※けんけん乗りとは・・・片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた。

②ペダルを踏まずに電源スイッチ（オン/オフスイッチ）を押すと、電源が入りランプが点灯します。

【注意】

- ペダルを踏みながらオンスイッチを押して電源を入れると、ランプが点滅しペダルアシストが動かない場合があります。急発進を防止するための機能であり、異常ではありません。この場合は、ペダルを踏まないでもう一度オンスイッチを押して電源を入れ直してください。
- バッテリーの残量が少ない状態（残量表示1ヶ点灯状態や点滅）のときはのぼり坂で乗車しない、アシストが切れたときにバランスを崩して転倒によるけがの恐れがあります。
- 夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認する、走行中アシストが切れた場合ライトも消灯します。
- 電源を入れて5分以上放置するとエコモードが働き、自動でOFFになります。



イメージ図

③残量表示・電力表示ランプの表示状況を確認。

残量表示ランプは下表のようにバッテリー残量の目安を表示します。

バッテリー残量表示	LEDランプ	走行の目安
	3ヶ点灯	ペダルアシスト走行できます
	2ヶ点灯	ペダルアシスト走行できます
	1ヶ点灯	そろそろ充電しましょう (バッテリー残量が少なくなりました)
	点滅	充電してください

※残量表示ランプが消灯していく間隔は、走り方・道路状況・バッテリーの状態により異なります。

※走行中こぎ出し時や坂道など負荷がかかった場合に一時的に残量表示ランプの点灯が減る場合もございます。

【お願い】

お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、ペダルアシストで走行できる距離の目安としてください。

④安全を確認してから発進します。

ハンドル、ブレーキレバーをしっかりと握ってから、前後左右の安全を良く確認してからペダルを踏んで発進する。ペダルを踏み込むとペダルアシストが働き作動音がします。

※走行中はペダルアシストの作動音がしますが、異常ではありません。

【お願い】

- ・電動アシスト自転車はペダルを踏み込むと力強く発進しようとするのでご注意ください。停車中はブレーキをかけ、坂道などの手前ではブレーキの効き具合を確認してください。
- ・電動アシスト自転車は普通の自転車に比べ若干重たい為、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。人がいない安全な場所で良く練習してから走行してください。
- ・ペダルアシストを使用し走行すると、モーターからギア音が発生する場合があります。
- ・お客様が実際に走行される条件とバッテリーの残量表示ランプの表示状況を確認し、ペダルアシスト走行できる距離を把握してください。

～アシストモードについて～

【アシストモードの切り替えかた】

- モード切替スイッチを押します。

押すたびにアシストモードが切り替わり、ランプで表示します。

(注) 設定位置は一般的な使用例ですので、道路状況や体調などに応じて設定位置を選択してください。

弱 「アシスト力」を快適かつ効率良く切り替えて走りたい場合におすすめ

- 平坦地などでペダルを踏む力が少なくてもよい場合には、自動的にアシスト力を抑えて節電走行します。

中 平坦地中心に一定のアシスト力で走りたい場合におすすめ

- 人の力「1」に対してモーターの力が最大「1」の割合の補助力で走行します。
- 広範囲にお使い頂ける標準的なアシストモードです。

高 坂道が多い道など、力強いアシスト力で走りたい場合におすすめ

- 人の力「1」に対してモーターの力が最大「2」の割合の補助力で走行します。
 - 「強」は「中」よりもペダルを心地よく回せるようにアシスト力をアップしています。このため、上り坂など力強いアシスト力が必要などときは、より楽に走行できますが、電力の消費量は多くなり走行距離が短くなります。
- (「中」に対して約70～80%)

アシストモードランプ



イメージ図

アシストモード切替スイッチ

～前照灯 (LEDライト) について～

【点灯のしかた】

- ライト入/切スイッチを押すとLEDライトが点灯・消灯状態に切り替わります。

ライト点灯・・・電源スイッチ「入」時

ライト消灯・・・電源スイッチ「切」時

【照射角度の調整】

自転車の前方約10mの路面を照らすように調整してください。



イメージ図

停止、駐輪のしかた

1. 自転車を停止させ、電源を切ってから自転車を降ります。

ブレーキのかけかた

後ブレーキをかけながら前ブレーキをかけてください。

※左側が後ブレーキ、右側が前ブレーキです。

※下り坂では、強くブレーキをかけっぱなしにしないで、小刻みにかけてください。

※前ブレーキをかけたとき、コツコツと音がすることがありますが性能上問題ありません。

電源の切りかた

電源スイッチを押し、残量表示ランプが消えたことを確認します。



前ブレーキだけのブレーキ操作はしないでください
後ブレーキだけのブレーキ操作はしないでください



イメージ図

2. 鍵について

本体には鍵（サークル錠等）は標準装着されていません。

お客様ご自身で盗難防止用の鍵をご用意頂くようお願いいたします。

※雨ざらしになるところには駐輪しないでください。

充電のしかた

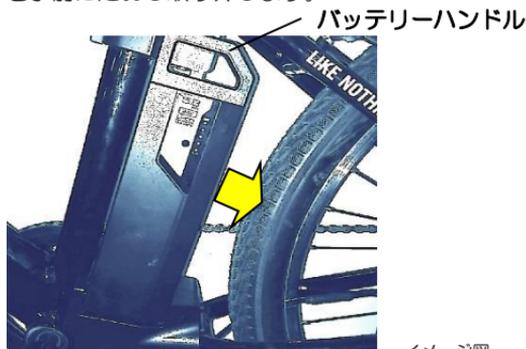
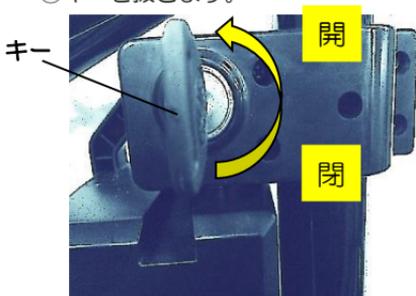
1 充電場所（下記条件をみたところ）を決めます。

- 風通しがよく湿気の少ないところ。
- 平坦で安定のよいところ。
- 直射日光や雨つゆの当たらないところ。
- 周囲温度が0℃～40℃のところ。
- 車内など高温になる場所では行わないで下さい。またバッテリー、充電器の保管もしないで下さい。
- 水がかからないところ。
- 幼児やペットなどがいたすらをしないで。

2 バッテリーを取り外します。

- ①キーを「バッテリー取り外しキーシリンダー」に差し込み、矢印の方向に回し、バッテリーハンドルを持ってバッテリーを手前にたおし取り外します。

- ②キーを抜きます。



イメージ図



自転車本体より、必ずバッテリーを外して充電を行って下さい。

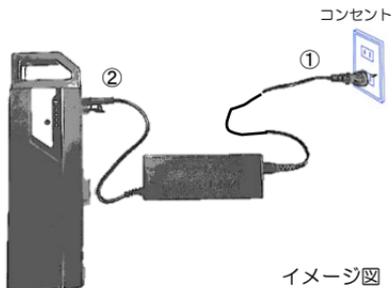
バッテリーを取り外すときはバッテリーハンドルを持ちながらキーを回して下さい。

バッテリー本体を持たずにキーを回すとバッテリー本体が落下し破損、けがをすることがあります。

3. バッテリーを充電器に接続します。

- ①電源プラグをコンセントに差し込みます。
* 充電器本体のランプが緑色に点灯
 - ②充電器にバッテリーを右図のようにしっかりと奥まで差し込んでください。
* 充電器本体のランプが赤色に点灯
- 【ご注意】

- 傾いた所で充電しないでください。
バッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。
- 充電器にバッテリーをしっかり奥まで差し込んでください。
差し込みがゆるいとバッテリーが転倒し、ケガの恐れがあります。
また、充電器の赤ランプが点灯せず充電できない場合もあります。
- テレビやラジオの近くで充電しないでください。
テレビやラジオに雑音が入る場合があります。
その場合は電気製品から離れたところで充電してください。
- 充電器のプラグをコンセントに差し込む前にバッテリーと接続すると、多少火花が出る場合があります。上記①、②の手順で作業してください。



バッテリーの充電について

- (1)バッテリーは工場出荷時、十分に充電されていませんので、ご使用になるときは充電してご使用ください。
長期保管される場合は満充電にしてください。また、1ヶ月に一度充電して保管してください。
- (2)バッテリーの状態や使用環境により、まれに充電できなったり、正常に充電が完了しない場合があります。この場合は一度充電器のコンセントを抜き、3分以上間をおいて充電してください。
- (3)満充電完了後、バッテリーを自転車に装着したとき、まれに下記の事象が発生することがあります。
 - 自転車の操作パネルの残量ランプが3灯点灯しない。
 - 残量ランプが2灯または1灯点灯しているのに急にアシストが停止する。
これは実際の電池容量に対し、残量表示のズレが生じている可能性があります。
この場合は、満充電完了後、一度バッテリーを充電器からはずし再度充電器にセットして充電を行ってください。

4. 充電方法（通常充電）

充電時間

充電前のバッテリー状態や外気温などにより異なりますが、残量表示ランプが1つになってから充電した場合、約4.0時間です。

【ご注意】

- ご購入後初回の充電では充電時間が多少長くなる場合があります。
- 充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

5. 充電完了後、電源プラグをコンセントから抜きます。

充電完了：

充電器のランプが赤色から緑色に変われば、充電が完了となります。

【ご注意】

- バッテリーを充電器に接続したまま持ち上げると、ケガをする恐れがあります。

6. バッテリーを取りつけます。

①バッテリー取り付け部に異物や濡れて無いかを確認します。

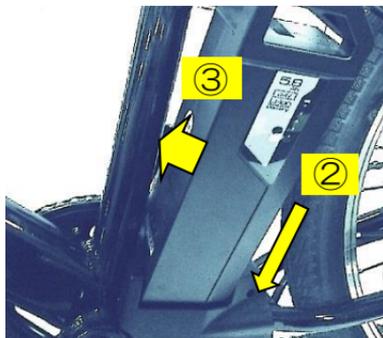
※異物がある場合は取り除いてください。濡れている場合は乾いたタオル等で拭いてください。

②バッテリーを自転車のバッテリー装着部の溝に合わせ、斜めに差し込み押す。

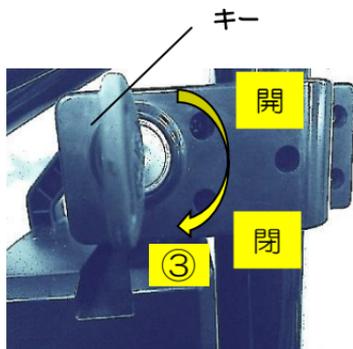
アダプター部とバッテリー側の溝にも合わせる。

③バッテリーを矢印の方向に押し、鍵をまわしバッテリーをロックする。

④装着後バッテリーがしっかり固定されていることを確認する。



イメージ図



※ご使用の前には、必ずバッテリーを手前に引いてみて、確実に装着されたことを確認してください。

※バッテリー横のボタンを押すと、インジケーターランプによるバッテリー残量が確認できます。

バッテリーについて

バッテリー交換の目安 バッテリーには寿命があります。

●バッテリー交換は有料です。

バッテリーの交換時期は、使用状況、充電のしかたなどにより異なりますが、新品時より著しく短く（約半分以下）なったときが交換時期です。

●バッテリー交換時期の目安。

バッテリー交換時期の目安として、約300～500回の充電の

繰り返しで交換時期に至る場合が多いですが、充電回数が300回未満の場合でもご使用や保管の条件等により、1～2年程度の使用期間で一回充電あたりの走行距離が著しく短く（新品時の約半分以下）なる場合があります。

※冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなります。また、ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる駐車場でバッテリーを保管すると、通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。

※バッテリーは消耗品です。「バッテリー交換時期の目安」と保証期間は関係ありません。

リチウムイオン電池のリサイクルについて

●この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。

リチウムイオン電池はリサイクル可能な、貴重な資源です。

不要になったバッテリーは完全に放置（アシスト走行ができなくなるまで）

させてから、充電式電池リサイクル協力店にお持ちいただくか、

保証書記載のサポートセンターまでご相談ください。

使用済みの小型充電式電池のリサイクルにご協力願います。



お手入れと保管

お手入れについて

- 本体の汚れは、水を含ませ固くしぼったやわらかい布などで、きれいにふき取ってください。
- 汚れのひどいときは、中性洗剤を浸した布でふき取り、乾いた布で洗剤が残らないようによくふき取ってください。
水洗いはしないでください。雨天走行で水にぬれたときは乾いた布でふき取ってください。
浸水によって電気部品（モーター部、バッテリー部など）および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。

注意：

シンナーやベンジン、みがき粉、アルカリ性洗剤、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。変色、傷、変形、ヒビ割れの原因になります。

- スポーク・ペダルシャフトなどのスチール部品は、布に防錆剤を吹き付けてふいてください。
- フレームなどの金属塗装部は、汚れをふき取った後、布に少量のワックスをつけてみがきます。

保管について

1. 保管場所（下記条件を満たすところ）を決めます。
 - 風通しがよく湿気の少ないところ。
 - 平たんで安定のよいところ。
 - 直射日光や雨つゆの当たらないところ。
※雨ざらしになるところは避けて保管してください。
 2. 電源スイッチが「切」になっていることを確認します。
 3. 鍵をかけます。
※本製品には鍵（サークル鍵等）は、標準装備されていません。お客様ご自身で鍵をご用意頂くようお願いします。
- 長期間（1ヶ月以上）保管されるときはバッテリーを車からはずし、満充電にして室内の涼しい所で保管してください。また、1ヶ月毎に充電し、再使用時は満充電をしてからご使用ください。
 - 自転車を廃棄するときは、各自治体の指示内容に従って処理してください。

ご 注 意！

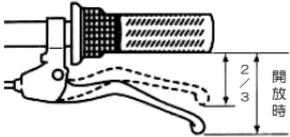
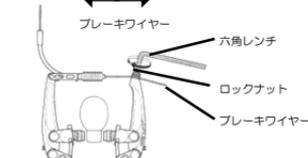
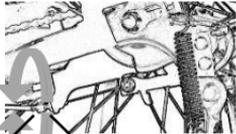
バッテリーのカギは2本付属しています。
カギを紛失しないよう
大切に保管してください。

故障かな？と思ったら (自転車)



- 次の点検をしていただき、それでもなお異常があるときは事故防止のためご使用を中止し、サポートセンターにご相談ください。
- 改造しないでください。分解や修理をしないでください。

こんなとき	調べるところ	直しかた
ペダルが重い。	電源スイッチがオンになっていますか。	電源スイッチをオンにしてください。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。 (標準空気圧)
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または自転車店に修理依頼をしてください。
電源スイッチを押しても残量表示ランプが点灯しない。	バッテリーが充電されていますか。	バッテリーを充電してください。
	バッテリーは確実に固定されていますか。	バッテリーの取付状態を確認してください。
走行できる距離が短い。	上り坂の連続走行や発進停止の繰り返しなど、高負荷運転をされていませんか。	走行条件によって、走行できる距離は短くなります。
	タイヤの空気圧が減っていませんか。	タイヤに空気を入れ下さい。 (標準空気圧)
	タイヤがパンクしていませんか。	パンクはお買い上げ販売店または自転車店に修理依頼をしてください。
	長期間使用しないで保管されていませんか。	バッテリーは自己放電します、長期間保管するとバッテリー残量が減ります。
バッテリーの取付ができない。	前照灯を点灯されていますか。	前照灯を点灯した場合、走行できる距離が短くなります。 異常ではありません。
	バッテリー取付部分などにゴミなどの異物はありますか。	異物などを取り除いてから、バッテリーを取り付けてください。

こんなとき	直しかた
<p>ブレーキの効きが悪くなった。</p>	<p>イメージ図</p>  <p>①ロックナットをスパナなどでゆるめます。 ②調整ネジを回し、ブレーキバーが開放時の2/3の位置で聞き始めるように調整します。 ③ロックナットをスパナで締めつけます。</p> <p>前ブレーキ</p> <p>効きが悪くなる 効きが良くなる</p>  <p>調整ねじ ロックナット</p> <p>効きが悪くなる 効きが良くなる</p>  <p>ブレーキワイヤー 六角レンチ ロックナット ブレーキワイヤー</p> <p>後ブレーキ</p> <p>効きが良くなる</p>  <p>調整ねじ ロックナット</p> <p>効きが悪くなる</p> <p>上記の調整を行っても、ブレーキの効きが悪い場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。</p>

故障かな？と思ったら (充電器、バッテリー)

こんなとき	調べるところ	直しかた
<p>充電できない。</p>	<p>充電器の赤または、緑ランプが点灯しない。</p>	<p>電源プラグをしっかりと差し込まれていますか。バッテリーと充電器は確実に接続されていますか。</p>
	<p>充電直後ではありませんか。</p>	<p>充電後すぐに充電しようとしても、充電しないことがあります。満充電からの追加充電はしないでください。温度が下がってくると充電を開始します。</p>
	<p>充電器の赤または緑ランプがゆっくりと点滅している。</p>	<p>周囲温度の高いところ（40℃以上）あるいは低いところ（0℃以下）で充電されていませんか。</p> <p>走行直後ではありませんか。</p>

こんなとき	調べるところ	直しかた
充電中、異常を感じたら。 (異音・異臭・煙がでるなど)		電源プラグを抜いてサポートセンターにご相談ください。
充電器やバッテリーが熱くなる。	手で触れられないほど熱いですか。	充電中は多少熱く(40℃~60℃)なりますが故障ではありません。 手で触れられないほど熱いときは異常です。 電源プラグを抜いてサポートセンターにご相談ください。

防犯登録について

- 自転車購入時は法律で防犯登録を行う事が義務付けられています。
購入後、お近くの自転車用防犯登録所の看板のある自転車販売店にご相談ください。

KH-DCY310NE

イメージ図



車体番号

- 盗難にあった場合には捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入してください。

K									
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- バッテリーキー紛失など注文時に必要となりますので、バッテリーキー番号も本書に記入してください。

--	--	--	--	--

仕様

品番		KH-DCY3 1 ONE
寸法	全長	1,540mm
	前幅	560mm
	サドルの高さ	800mm-920mm
	折りたたみ時	880*460*680mm
タイヤサイズ		20インチ
質量		23.0kg
充電1回の走行距離 (当社指定パターン)		最大約21km (低モード時)
変速機形式		-
前照灯		バッテリー式LED前照灯
フレーム		U形
スタンド		片脚スタンド
ハンドル		ストレート
錠前		-
補助速度 範囲	比例補助	0km/h以上~10km/h未満
	逡減補助	10km/h以上~24km/h未満
駆動輪		後輪
モーター	形式	ブラシレスモーター
	定格出力	250W
制動装置	前輪/後輪	Vブレーキ
バッテリー	品番	KH-BA05
	種類	リチウムイオンバッテリー
	容量	3.6Ah
	電圧	24V
充電器	品番	XVE-2940300
	電源	AC100V-240V
	充電時間	約4時間
乗車適応身長 (目安)		140cm以上

●乗車適応身長は、サドルを一番下に下げ車体正位状態で、両足のつま先が地面につく目安となる身長です。個人差がありますので目安としてください。

●この車種は、乗車体重を65kgで基本設定しています。65kg以上の方が乗車するとすぐに壊れてしまうというものではありませんが、著しくオーバーした体重の方が常用される場合には、車体や各部品などの消耗度合い、劣化度合いが大きく早くなるをご理解ください。

●寸法や質量等の値は、部品のばらつきや仕様変更により誤差が生じる場合があります。

●仕様変更などにより、写真・イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

*走行条件：バッテリー新品・アシストモード低モード・温度20℃、無風状態、前照灯消灯、車載重量60kg (乗員及び荷物の合計)、標準空気圧、平滑な路面。

品質保証規定

〈無料修理規定〉

- 保証期間はご購入日より1年間。但し、消耗部品等は除く。
- 取扱説明書の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ) 無料修理をご依頼になる場合には、商品に保証書を添えて頂き、ご購入上げ販売店にお申しつけください。
- ご転居の場合の修理ご依頼等はお買い上げ販売店にご相談ください。
- ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けにならない場合には、保証書に記載のサポートセンターまでご相談ください。
- 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(ロ) 取扱い説明書に従わない使用方法（乗車定員、禁止事項の無視等）による故障及び損傷
(ハ) 衝突・転倒・転落等の扱いの誤りによる故障及び損傷
(ニ) 自転車一般在に走行しない場所を走行された場合の故障及び損傷
(ホ) 業務用（荷物運搬、新聞配達等）・営業用（レンタルサイクル等）・不特定多数で使用された場合の故障及び損傷
(ヘ) 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変及び公害・塩害・ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
(ト) 消耗部品（下記記載）及び消耗部品の消耗によって生じた二次的故障及び損傷

消耗部品	タイヤ・チューブ・ブレーキゴム類（ブレーキブロック、パッド、ライニング等を含む）・ 油脂類・バッテリー・乾電池・電球・ヒューズ・ダイナゴムローラー・ワイヤ類・サドル・ペダル・ ヘルム・リフレクター類・スタンド・グリップ
------	---

- (チ) レース等の酷使による故障及び損傷
 - (リ) クギ・ピン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ等により生じたパンク
 - (ヌ) 保証書のご提示かない場合
 - (ル) 保証書はお買い上げ年月日・お客様名・販売店名の記入捺印がない場合、あるいは文字を書き換えられた場合
*但し、保証書欄に記載がない場合は、納品書などの製品名・購入年月日・販売店名が記載されたものをご用意ください。
- 保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
 - 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 - ご相談窓口は下記をご参照ください。

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。



株式会社 カイホウジャパン
〒192-0906
東京都八王子市北野町598-11
TEL：042-631-5357（サポートセンター）
FAX：042-631-5359

受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）10～17時

-メモ-